



## 取締役会の実効性評価

### 評価方法

手法	取締役・監査役の全員を対象に、記名式アンケートを実施した上で、アンケート補完を目的に社外取締役への個別ヒアリングを実施 集計結果に関する取締役会の議論を経て、実効性の評価および今後の課題を設定
評価項目	取締役会の構成、取締役会の運営、社外役員に対する情報提供、前事業年度からの改善点、総合評価、フリーコメント
評価期間	2024年1月～2024年12月

### 2024年 評価結果概要

当社は2016年に、指名委員会、報酬委員会、経営会議、リスク・コンプライアンス委員会等を新設したことで、取締役会を中心としたガバナンス体制の抜本的強化を図った結果、さまざまな点において格段の改善を見たことが、年次で実施している取締役会実効性評価において確認されました。特徴的なのは、すべての社外取締役が取締役会以外の重要会議にも積極的に陪席し重要事案に関する理解を深めていることで、それら社外取締役からの中立・客観的な意見が取締役会の監督機能向上に大きく寄与していることが、実効性評価において指摘されています。現ガバナンス体制は概ね定着し、当初の成果が適切に維持されているだけでなく、2024年には、サステナビリティと経営戦略の連携強化を図るなど、継続的な体制強化に努めております。

### 2024年 取締役会審議事項

テーマ分類	審議事項トピックス
ガバナンス・ リスク管理・ 子会社管理 <b>37.7%</b>	取締役会の実効性に関する分析・評価 資金調達、運用および市場リスク管理実績報告 内部統制システム基本方針・取組状況、 内部監査計画・報告 リスク・コンプライアンス委員会報告
人事・組織 <b>17.4%</b>	取締役・役員の人事 組織改編・規程改定
決算・財務 <b>17.4%</b>	月次決算・決算短信・有価証券報告書

経営戦略・  
サステナビリティ **24.6%**

年次予算・中期経営計画策定・進捗報告

事業ポートフォリオ評価・分析、政策保有株式妥当性検証

サステナビリティ推進委員会、  
カーボンニュートラル推進委員会報告

黒鉛電極生産体制再構築

生物多様性方針制定およびTNFD関連開示

### 前年に検証された課題への対応

前年に検証された課題のうち、サステナビリティ(カーボンニュートラル対応含む)と経営戦略との連携については、マテリアリティやKPIの進捗管理に加え、サステナビリティ情報の開示拡充、従業員エンゲージメントサーベイ結果を踏まえた対応、生物多様性(TNFD)対応等に係るサステナビリティ推進委員会の報告・提言を踏まえ、取締役会での議論を深め、開示にも反映させました。

また、事業ポートフォリオマネジメントの高度化等、よりハイレベルなテーマの取り組みについては、事業部毎のエコノミック スプレッドやエコノミックプロフィットを四半期毎に取締役会に報告する体制とし、この情報を元に、改善を要する事業と一層の成長を志向すべき事業を明確化した上で、改善を要する事業には構造改革、成長志向の事業には優先的に投資を実施する体制を整えました。事業ポートフォリオ分析・評価は、「資本コストや株価を意識した経営の実現」にも十分に留意して実施しています。

### 2025年の課題

2025年についても、サステナビリティ(カーボンニュートラル対応含む)と経営戦略との連携、事業ポートフォリオマネジメントの高度化等、よりハイレベルなテーマについての取り組みを継続課題と考えています。前者については、カーボンニュートラル達成に向けた中間目標である2030年25%削減への道筋明確化や、従業員エンゲージメント向上に向けた取り組み、後者については、黒鉛電極・スマルティング&ライニング事業の構造改革の方向性を固めることが、2025年の取締役会の重要課題です。